

✦ 延世大学医学部生との交流について



国際交流協定を締結している韓国の延世大学医学部生が特別交流プログラムの一環でセンターを見学しました。延世大学医学部では、平成30年3月に重粒子線治療装置「山形モデル」の導入を決定し、延世大学から重粒子線治療に向けての協力依頼がありました。重粒子線治療だけでなく、教育・研究における協力関係の構築や教職員・学生の交流を含む包括的な国際交流協定を締結する運びとなったものです。

✦ パンフレットの完成案内

山形大学医学部東日本重粒子センターの
パンフレット完成

この度、当センターのパンフレットが完成いたしました。当センターの特徴、各フロアの写真や、治療費、Q&Aなどについて記載しております。パンフレットは附属病院へ設置、またはホームページよりご確認ください。

寄附のお願い



山形大学医学部では、重粒子線がん治療による福祉の向上・発展のために、寄附金の募集を行っております。税制上の優遇措置などもあります。皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

寄附者の顕彰(1万円以上ご寄附いただいた方々を対象)

ご厚意に感謝の意を込め、ご寄附いただきました方々のご芳名を山形大学医学部東日本重粒子センターおよびホームページに承諾の上、掲載させていただきます。
▶ 詳しくはホームページでご確認ください

お問い合わせ

- 発行元：山形大学医学部東日本重粒子センター 運営委員会委員長 嘉山孝正
- 電話：023-628-5296
- 住所：〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2
- 受付時間：午前9時 - 午後5時(土日祝日は除く)
- URL：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/
- Eメール：heavy-ion@mws.id.yamagata-u.ac.jp



山形大学医学部 東日本重粒子センター

News Letter
East Japan Heavy Ion Center

重粒子線治療について患者さんと市民、医療関係者の情報共有くらぶ

2019年
Vol.04

✦ 東日本重粒子センター竣工

東日本重粒子センター
治療開始まで
1年を切る!

今年5月に本医学部内に竣工しました「山形大学医学部 東日本重粒子センター」は、治療開始予定まで1年を切るところとなりました。

現在は治療装置の設置が行われ、順次調整、試験へと移行します。2020年夏の治療開始に向け着々と準備が進んでおります。

✦ メッセージ寄稿



「県民のがん治療の向上のために」

山形県知事
吉村 美栄子
Yoshimura Mieko

本県では、「がんを知り、がん向き合い、がんになっても安心して暮らせる社会の実現」を目指し、平成29年度に「みんなで取り組む『がん対策県民運動』」をスタートし、市町村や関係機関と連携し、相談支援の充実やがん検診受診率の向上などに積極的に取り組んでいます。

山形大学医学部附属病院は、今年9月に、厚生労働省が指定する「がんゲノム医療拠点病院」に選ばれるなど、本県におけるがん治療の中核を担っております。その山形大学医学部において、現在、東北・北海道では初となる、日本が世界に誇る先端技術である重粒子線がん治療を行う「東日本

重粒子センター」の整備が進められております。

重粒子線によるがん治療は体への負担が少なく、通院でもがんを治療できることから、家庭や職場を長く離れることなく治療することができ、県民の皆様が身近な所で受けられるがん治療の幅を大きく広げるものとなります。

「東日本重粒子センター」は、本県におけるがん治療をさらに強化し、県民の医療と福祉の向上に大きく寄与するものとなります。本センターでの治療が開始され、多くの方のがん治療に活用されることを期待申し上げます。

✦ 山形市民公開講座

～世界最先端の重粒子線がん治療を目指して～



主催者挨拶
山形大学医学部先端医療国際交流推進協議会 会長
嘉山孝正医学部参与

6月8日、山形テルサにて山形大学医学部先端医療国際交流推進協議会（以下、先医交）主催で市民公開講座を開催し、約400名が聴講しました。

主催者挨拶で嘉山孝正医学部参与は、「日本人の死因は、1975年頃に脳卒中を抜き、がんが1位になった。時代の変化の中で色々な治療法が出てきた。放射線治療においては、エネルギーの違いなどから治療後の再発など限界があったが、それらを乗り越えたのが重粒子線がん治療だと考えている」と述べました。



質問コーナーの様子

また、基調講演では、根本建二附属病院長が「重粒子線治療とは」と題し、その特長について「①効果が大きく副作用が少ない②従来の放射線治療で効かなかったがんにも効果がある③治療期間が短い」と説明しました。その後のパネルディスカッションでは、最先端のがん治療に携わる専門医5名が肺がん、乳がん、消化器がん、子宮がん、血液のがんについてそれぞれ解説し、最後に会場からの質問に答えました。

✦ 仙台市民公開講座

～がんのこれからを知る～

7月21日、仙台国際センターで先医交主催（共催：東北大学医学部・山形大学医学部）の市民公開講座を開催し、約350名が聴講しました。

嘉山孝正医学部参与は、2009年にオバマ前大統領が、米国ヒトゲノム計画のリーダーであったフランス・コリンズ氏を国立衛生研究所の所長に任命し、ゲノム医療の布石としたことに触れ、「日本では昨年2月、厚生省が東北大学病院をがんゲノム医療の中核病院に、山形大学医学部附属病院をその連携病院に指定し、ようやくゲノム医療が日常医療にも入ってきた。この10年のがん研究が現場に表れている」と挨拶しました。

共催者挨拶で富永悌二東北大学病院長は、山形大学医学部で始まる重粒子線がん治療について言及し、「身近にがん治療の選択肢ができることは喜ばしい。両大学が共に力を合わせ最新のがん事



情をお知らせする」と述べ、根本建二山形大学医学部附属病院長は「福島・山形・宮城が高速道路で結ばれ、人・モノの交流が盛んになっていくことが期待される。未来の医療も、広いエリア・広い交流の中から最適な治療法を選択できる状況が大事」と話しました。

第1部では東北大学病院の石岡千加史腫瘍内科教授ががんゲノム医療や個別化医療等について、第2部では、東北大学の小川武則准教授、福原規子講師、山形大学医学部の永瀬智教授、土谷順彦教授、根本建二病院長が最新のがん治療について解説し、会場からの質問に答えました。

✦ 東日本重粒子センターの内部



加速器室

病巣に照射する重粒子線を作り出す機械
(シンクロトロンを中心とする装置エリア)



治療待機室



受付ホール



渡り廊下

渡廊下を通じて世界初となる総合病院接続型を実現。
糖尿病・心臓病などの余病がある患者さんでも安心です。